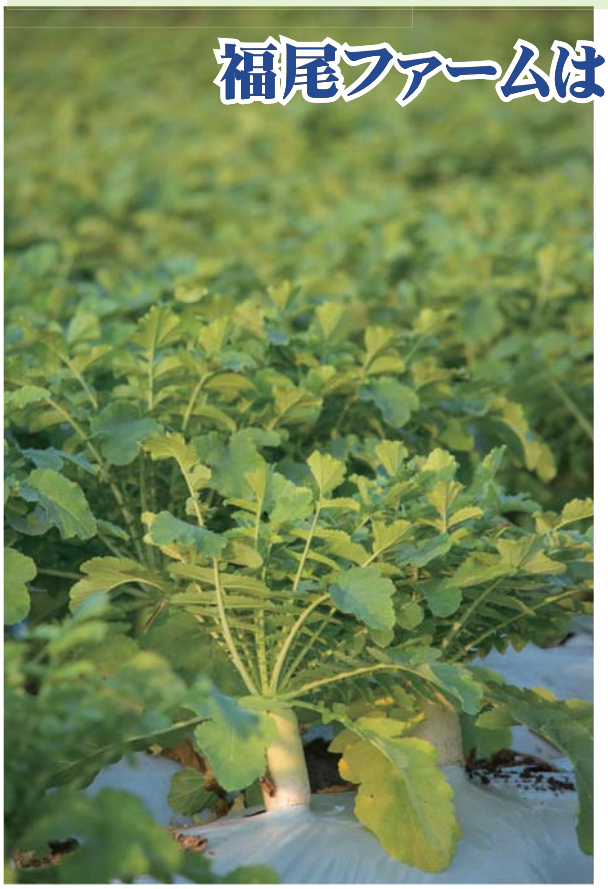
みらい すくすく 通信
561号
この通信に掲載の野菜のお届け日
2022年 7月25日～ 7月29日
2022年 7月10日発行
有機農協のお届け便 ゆうきの実

いつも有機野菜をお買い上げありがとうございます。
毎週、旬の情報をお伝えします。



福尾ファームは有機大根で福をお届けします。

自らが農業を志すきっかけは、海外青年協力隊へのあこがれ

福尾拓さんと奥様の綾さん

札幌出身の福尾さんは、新規就農をして今年で 12 年目の夏を迎えました。福尾さんは高校生の時に海外青年協力隊にあこがれ、協力隊のことについて調べている中で、農業技術が多くの国で求められていることを知り、東京農業大学へ進学をしました。

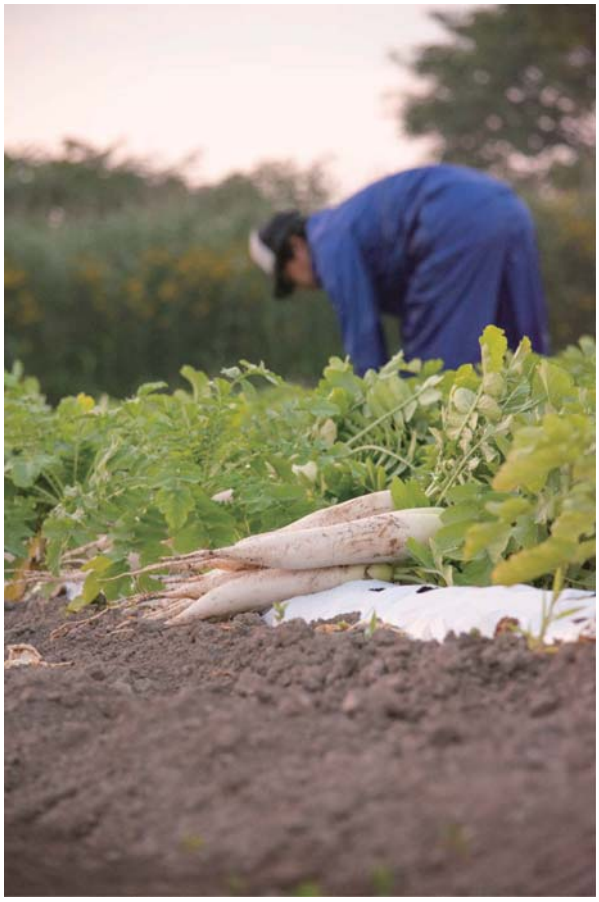
大学では協力隊として活躍するための知識や技術を身に着けるため勉強をしていましたが、「海外で役立つためにはまず日本で農業のプロになる必要がある」と考え、農業を職業とすることに決めたといいます。

そして就職活動の時期を迎え、地元札幌に近い新篠津で農業の企業説明とも言える「新・農業人フェア」に参加し、オーガニック新篠津という農業法人に入社しました。
社員生活は 7 年。その間大根の生産と販売までを任され、大根の生産技術を習得しました。さらに退職後 2 年間は研修生として技術に磨きをかけ、2014 年いよいよ農家として独立したのです。

涼しい北海道だから大根がおいしい

北海道でおいしい野菜として有名なのは、アスパラやとうもろこし、人参にじゃが芋、かぼちゃ…と言い出すとたくさんありますが、実は大根も春から秋にかけて北海道を代表するおいしい野菜の一つに数えられます。

大根は涼しい気候を好む冬が旬の野菜なので、本州が蒸し暑くなる夏の時期は、涼しい気候の北海道が大根の一大生産地となります。
涼しい気候だからと生産が盛んな大根も、地球温暖化の影響なのか、ここ最近は北海道でも大根の生産が厳しいことがあります。



昨年の高温と干ばつそして今年への期待

特に昨年は、高温と干ばつでこれまでに経験したことが無い厳しい夏だったと振り返ります。作付けした大根を干ばつの影響で大量に廃棄せざるを得なかったのです。

異常気象や温暖化といった天候の変動は、個人の力ではどうすることもできません。福尾さんは、「今年は暑さに強い種を選んだくらいで特別なことはしていません。いつもの年と同じように畑にミネラル分や微生物、肥料を与え、大根がしっかり育つ環境を整え管理をするだけです」と言います。

取材した日の札幌の気温は 30℃を超え、湿度も高く毎日寝苦しい夜が続いている時でした。今年の作柄を伺うと「6 月後半の雨で畑が十分に保水し暑さに負けず生育中ですが、大根の肌がきれいではない物もあり、味はおいしいけれども少し心配かな」とのお聞しでした。

これから福尾さんの大根が本格的に出荷され始めます。暑さに負けずおいしく育ったと福尾さん期待の大根です。今後も順調に育ち皆さんにお届けし続けられることを願ってやみません。